

59. 悪化する自然環境～命の弱体化～

2015.1.1 遠藤清賢



私たちが生きている場所は、この地球という太陽系の3番目の惑星です。私たちはここでしか、生きることができません。この地球の環境が私たちの命を育み、生かしてきたのです。地球の環境の変化と共に長い時間の中で生命は多様化し、複雑化し、私たち人が生まれました。私たちがこの環境を創ったのではなく、この地球という星がありこの環境があって命が発生し、命が存続しているのです。人の命は儚いものですがこの自然がありこの中で守られているのです。人はこの自然をあたかも自分たちが支配しているもののように捉えていますが、自然が私たちを生かしているだけです。もし、自然が生物の命を受け入れない環境になったとき私たちは簡単に消え失せてしまうものでしかありません。

私たちは生きるために様々な決まりを創りました。自分の命の時間を出来るだけ継続させるために、また新しい命を誕生させその成長を支えるために、体を動かし、考え、食し、他者と関わって生きています。この自然との関わり合いを良くも悪くも改めて私たちに教えてくれたのは東日本大震災であったと思います。私たちは地球上の環境なくして命を継続することは不可能なのです。ですから私たちが生きて行くためには、今人が生きているこの地球環境を守り続けることが求められているのです。しかし、人はこのことについて何も考えていないようです。自国の経済発達のためにCO₂等の温暖化ガスを大量に排出しています。人間がコントロールできない原子力エネルギーによる発電をさらに増産しようとしています。そしてお互いを殺し合う戦争が今も続いています。人間はまるで、がん細胞のように自分たちの大切な自然環境を壊し続けています。将来、子ども達が、どんな劣悪な環境で生活しなければならないのか何も考えていないようです。

私たちの多くは社会の仕組みも、人間の体の機能も退化していることに気付いていません。新しい命を生み、育てる能力が失われていることや、温暖化や寒冷化等の急激な環境変化に順応することができなくなっていることに危機感を持っていないようです。人間自らが作り出した放射能などの特殊な化学物質が人間の体を蝕んでいるのですが、私たちはその製造を止めることができません。進歩したと思っていることの多くは人を生かすのではなく、地球上の命を消滅させるために発達しているようにしか見えません。

本来あるべき生き物として人間はどのような生活をしなければならないのか、真剣に考えなければなりません。心地良いとか便利である、物が豊富にあることに心を奪われてはいけません。私たち一人ひとりの生きる時間は有限の時間です。その間に、子どもたちに対して自分たちの住んでいる環境をどのように守り大切にしなければならないのかを伝えなければなりません。私たちが生きることのできる環境は限られています。場所も時間も無限ではありません。我々が自分の命を大切に継承したいと願うなら、このままではいけないのです。人間が自然を破壊することを変えようとしなければ、自然が人間の命を排除してしまうかもしれません。

ゆうやけおにぎり (5個分)

お米 1合、
麦 25g
人参(すりおろし) 1/4本
塩 ひとつまみ

作り方

- ① お米を研ぎ、分量の水、麦、すりおろした人参、塩を入れ炊飯する
- ② 炊けたらおにぎりにする。



奥州市江刺区男石 1 丁目3-5 社会福祉法人 江刺保育園 子育て支援事業
電話 0197-35-1522 ファックス 0197-35-1741
子育て広場「友遊広場」専用電話 090-7327-9686

Eメール esahoiku@pup.waiwai-net.ne.jp ホームページ <http://www.esashihoikuen.com/>